

令和 5 年度
教育委員会事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価に関する報告書
(令和 4 年度対象)

令和 5 年 10 月
小豆島町教育委員会

目 次

I. 目的及び制度の概要	1
II. 点検・評価の方法	1
III. 小豆島町教育大綱の概要	2
IV. 教育委員会の活動状況	4
V. 点検・評価の結果（事務事業の点検・評価表）	
(1). 幼・保、小、中、高の一貫教育の推進	
学力向上事業	7
I C T教育の推進	8
運動能力向上事業	9
ふるさとを愛する事業	10
人間尊重(心)の教育推進	11
食育の推進事業	12
コミュニティ・スクール・地域学校協働活動	13
(2). 子育て応援の充実	
子育て応援事業	14
子育て支援拠点事業・放課後児童クラブ事業	15
(3). 生涯学習と文化・芸術の推進	
生涯学習の推進	17
文化芸術の推進	18
青少年の健全育成の推進	19
図書館活動の充実	20
社会体育の充実	21

I. 目的及び制度の概要

効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表する。

II. 点検・評価の方法

1. 令和4年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検・評価を実施した。

なお、点検・評価する項目は、小豆島町教育大綱に掲げた重点課題の取組に係る事業（14項目）について行うこととした。

【自己評価の区分】

- A：事業目的を達成したもの（80%以上）
- B：概ね事業目的を達成したが、検討課題等が残るもの（50%以上 80%未満）
- C：事業目的の達成度が不十分なもの（20%以上 50%未満）
- D：事業目的の達成度がきわめて不十分なもの（20%未満）

2. 点検・評価を行うに当たっては、本町の教育に関し学識経験を有する者の組織を設置し、知見の活用を図ることと定められているので、3名を点検評価委員に委嘱し、より客観性のある評価を得ることとした。

◎点検評価委員

空 林 志 郎	氏	(学識経験者)
岡 田 さゆり	氏	(学識経験者)
楠 初 美	氏	(学識経験者)

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）（抜粋）
(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅲ. 小豆島町教育大綱の概要

●趣旨

この大綱は、町長が「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定に基づき、策定するものである。

国の第3期教育振興計画（平成30年6月策定）を参酌し、社会情勢や本町の子どもたちを取り巻く現状を踏まえて、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策」の方向性を定めている。

●大綱の期間

本大綱の対象期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とし、社会情勢や教育を取り巻く環境や施策の進捗状況に応じて、適宜見直しを行う。

●小豆島町教育目標

ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくり

●重点課題

- (1) 幼・保、小、中、高の一貫教育の推進
- (2) 子育て応援の充実
- (3) 生涯学習と文化・芸術の推進
- (4) 誰もがいきいきと暮らせる社会に向けた取組

●教育方針

- (1) 学ぶ意欲を高め、知性を磨く
- (2) 人間尊重の精神と豊かな道徳性を養う
- (3) たくましい心と体を鍛える
- (4) 社会連帯の意識を養い、郷土を愛する心を育てる
- (5) 子育てと社会参加の両立を推進する

●重点課題の取組

- (1) 幼・保、小、中、高の一貫教育の推進
 - ①発達段階を考慮した学校教育のあり方
 - ②幼・保、小、中、高の一貫教育の推進
 - ③安全で安心できる学校施設の整備
 - ④学校教育の取組
 - ⑤運動能力向上の取組
 - ⑥家庭・地域の教育力向上の取組

- (2) 子育て応援の充実
 - ①就学前教育の充実
 - ②子育て応援の取組
 - ③自然・文化を生かした教育
 - ④働きやすい環境の促進
- (3) 生涯学習と文化・芸術の推進
 - ①生涯学習の推進
 - ②文化・芸術活動の推進
 - ③青少年の健全育成の推進
 - ④図書館活動の充実
 - ⑤社会体育活動の推進
 - ⑥こどもの夢応援プロジェクト事業の推進
- (4) 誰もがいきいきと暮らせる社会に向けた取組
 - ①生涯を通じた障害者支援の充実
 - ②偏見や差別のない社会の構築
 - ③各計画との連携

IV. 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会の開催状況

開催日	区分	議 決 事 項 (協 議 ・ 報 告 事 項)
令和4年 4月21日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定について ・ (池田小学校長寿命化改修工事について)
5月23日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区域外就学の協議(承認)について ・ 小豆島町立学校におけるタブレット端末等貸出要綱 ・ 小豆島町立学校におけるモバイルルータ等貸出要綱 ・ (社会体育施設等のあり方方針)
6月24日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 池田公民館館長の選任につき同意を求めることについて ・ 社会教育委員の委嘱につき同意を求めることについて ・ 準要保護児童生徒の認定について
7月22日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育委員の委嘱につき同意を求めることについて ・ 指定校変更の認定について ・ (池田公民館館長及び副館長の選任について) ・ (福田公民館館長の選任について) ・ (給食費無償化について)
8月23日	臨時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小豆島町立学校服務規則の一部を改正する規則について
9月26日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区域外就学の認定について ・ (全国学力・学習状況調査の結果について)
10月24日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定校変更について
11月21日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ (小豆島町文化財保存活用地域計画について) ・ (特別に支援の必要な児童生徒等の就学判定について) ・ (小豆島町家庭的保育事業等の認可等に関する規則)
12月22日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定校変更の認定について ・ 指定園変更の認定について
令和5年 1月25日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小豆島町立学校管理運営規則の一部を改正する規則について ・ 小豆島町立幼稚園規則の一部を改正する規則について ・ 小豆島町立学校給食センター規則の一部を改正する規則について ・ 小豆島町立学校に勤務する県費負担教職員の自家用車の公務使用に関する取扱要綱の一部を改正する訓令について ・ R4・R5 区域外就学の認定について ・ 指定校変更の認定について ・ R5 指定園変更の認定について ・ (小豆島町特定地域型保育事業者の確認等に関する規則の制定について) ・ (小豆島町子育て支援施設個別施設計画について) ・ (小豆島町教育大綱について) ・ (令和4年度卒業式、令和5年度入学式等について)

開催日	区分	議 決 事 項 (協議・報告事項)
令和5年 2月20日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定について ・ R5 指定校変更の認定について ・ R5 区域外就学の認定について ・ (令和4年度卒業式、令和5年度入学式等について)
3月6日	臨時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定について
3月27日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小豆島町立図書館管理運営規則の一部改正について ・ 三都公民館館長の選任につき同意を求めることについて ・ 橘公民館副館長の選任につき同意を求めることについて ・ 地域学校協働推進員の委嘱つき同意を求めることについて ・ 地域コーディネーターの委嘱つき同意を求めることについて ・ R5 区域外就学の承認について ・ R5 指定校変更の認定について ・ 準要保護児童生徒の認定について ・ 小豆島町立小豆島こどもセンター規則の一部を改正する規則 ・ 小豆島町立幼稚園預かり保育実施要綱の一部を改正する要綱 ・ 地方公務員法の一部を改正する法律の施行に伴う関係教育委員会規則の整備に関する規則 ・ (こども家庭庁設置法等の施行に伴う関係条例の整備に関する条例) ・ (こども家庭庁設置法等の施行に伴う関係規則の整備に関する規則) ・ (令和5年度 入学式等について) ・ (令和5年度 学校等指導訪問実施予定表について)

2. 教育委員会のその他の活動状況

月	内 容
令和4年 4月	2日～12日 小・中学校・各幼稚園入学(園)式 7日 小豆島中央高校入学式 30日 二十四の瞳岬の分教場研修会
5月	15日 池田小、星城小、安田小、苗羽小学校運動会 20日 指導訪問(せいけんじこども園) 25日 小豆島中学校運動会 30日 二十四の瞳岬の分教場研修会
6月	3日 指導訪問(内海保育所) 7日 指導訪問(安田幼稚園) 17日 学校訪問(星城小学校) 21日 学校訪問(池田小学校) 23日 壺井栄賞授賞式

月	内 容
令和4年 7月	5日 指導訪問（福田こども園） 22日 小豆島町総合教育会議
8月	23日 学校施設等巡回視察
9月	7日 学校訪問（小豆島中学校） 13日 学校訪問（苗羽小学校） 22日 指導訪問（安田幼稚園） 29日 指導訪問（小豆島こどもセンター）
10月	7日 指導訪問（橘こども園） 12日 学校訪問（苗羽小学校） 13日 教育支援委員会 26日 指導訪問（星城幼稚園） 22日 小豆島中学校潮会 24日 社会教育施設等巡回視察
11月	5日・6日 教育文化祭展示会 9日 小豆島中学校人権集会 29日 小豆島町総合教育会議
12月	4日 小豆島駅伝競走大会 12日 教育委員会事務の管理及び執行に関する点検評価委員会
令和5年 1月	8日 はたちのつどい 25日 教育表彰選考委員会
3月	1日 小豆島中央高校卒業式 1日 教育委員会表彰の表彰式 11日～18日 町内保育所・幼稚園修了式 10日 小豆島中学校卒業式 14日 小豆島町総合教育会議 17日 町内小学校卒業式

事務事業の点検・評価表

事務事業名	学力向上事業	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	こども教育課	重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
		取組	(1)-④学校教育の取組

事業の目的	
<p>《概要》 児童生徒に基礎的、基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、確かな学力を育成させる。</p>	
対象	小学生、中学生
手段	授業等へ外国語等の専門講師派遣
目標	個に応じたきめ細かな指導と、個を活かした協働的な学びを一体的に進めるとともに、少人数指導による学習内容を定着させ、基礎的・基本的な知識・技能と、思考力、判断力、表現力等を総合的に学習意欲の向上を図る。

【これまでの実績】

演劇ワークショップは中学校が平成26年度から小学校は平成27年度から行っている。

【令和4年度実績】

○演劇等を活用したコミュニケーション教育の推進

- ・講師：平田オリザ氏
- ・実施学校：小豆島中学2年生95名
- ・実施時期：令和4年7月14日～15日
- ・事業内容：生徒5,6人の班に分かれ題目「クラスに転校生がやって来る」を自由な発想で物語、せりふを考え役作りし発表を行った。
- ・講師：わたなべなおこ氏
- ・実施学校：各小学校全学年2時限
- ・実施時期：令和4年6月6日～10日、6月27日～7月1日
- ・事業内容：コミュニケーションゲーム、ジェスチャーゲームなどの創作、発表を行った。

○英語教育の推進

- ・小学校の英語授業において、教員のサポート行い、児童の英語の学力向上を図った。
4小学校を2名が勤務した。
- ・中学校に外国語指導員、外国語指導助手（ALT、5月からアメリカ人）を配置し、英語の学力向上を図った。
幼稚園、小学校にも派遣した。

【事務局の評価】 B

自己肯定感や自己有用感、自制心ややり抜く力といった非認知スキルを育むために町では演劇を活用したコミュニケーション教育を行っている。小学校ではコロナ禍で3年ぶりの開催となった。中学校では毎年実施できている。両講師から全国の他の学校よりも協働性や創造力などの点で優れていると評価を頂いている。

また、グローバル化が進む中、現在の子どもたちにとって生きた英語教育の重要性が増している。子どもたちの中の英語を話すことへのハードルを下げ、英語を楽しく学びながら、英語をコミュニケーションのツールとして使える子どもの育成をめざす。今後も外国語指導員、外国語指導助手（ALT）の配置を継続し、外国語の理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲・態度の育成を目指し、外国語指導の一層の充実を図る。

【学識経験者の意見】

- ・コミュニケーションは大事なものであると思う。英語は推進してもらいたい。
- ・コミュニケーションの取り組みは良い。外国語については幼保から学ぶ時間を増やしてもらいたい。
- ・自己肯定感や自己有用感、自制心ややり抜く力等、非認知スキルを育むために演劇を取り入れた構想は素晴らしい取り組みであると思う。今後も継続してもらいたい。講師からの先生からの良い評価を頂いていることはすごいことだと思う。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	I C T教育の推進
担 当 課	こども教育課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
取 組	(1)-④学校教育の取組

事業の目的	
《概要》 児童生徒に基礎的、基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、確かな学力を育成させる。	
対 象	小学生、中学生
手 段	学校現場の ICT 環境を整備し、ICT 支援員による教育支援を行う。
目 標	「情報活用能力」を「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけ、教科横断的に育成していくとともに、ICT を効果的に活用し個別最適な学びや協働的な学びの充実を図る。

【これまでの実績】

小中学校で1人1台のタブレット端末を貸与し、デジタル教科書を導入した。また、各学校へ充電保管庫を設置し、高速大容量の通信ネットワーク整備を行った。

【令和4年度実績】

○情報教育の推進

- ・小豆島中学校でタブレット端末の持ち帰り学習を実施するにあたり、個別最適な学習を実現するためAIドリルを導入した。また、各家庭で平等な通信学習環境を確保するため、モバイルルーターの貸出を行った。
- ・学校の授業や課外学習において効果的なタブレット端末の利活用ができるよう、国庫補助金（1/2）を活用して各学校へ大型モニター（65インチ以上）を配備した。
※令和4年度実績：14台
- ・令和5年度の小学校AIドリル導入に向け、各学校で複数のドリルを試用し選定を行った。学校ごとの意見をとりまとめ、令和5年2月の校園所長会で導入するAIドリルを決定した。
- ・学校・家庭での安全なネットワーク環境を確保するため、クラウド型WEBコンテンツフィルターの導入に向けた体制づくりを行った。

○ICT支援員による教育支援

- ・ICT支援員1名、地域おこし協力隊1名を配置し、タブレット端末を活用した授業の支援、教員のICT機器活用補助を行った。

【事務局の評価】 B

令和4年度より本格的に1人1台タブレットを活用した授業を展開している。中学校では、香川県より教育の情報化推進モデル校の指定を受け、教員の研修や研究授業等を行い、教員のスキルアップに努めた。また、令和4年度全国学力・学習状況調査では、学校でICT機器をどの程度使用しているかという項目について、ほぼ毎日使用していると回答した割合が全国を上回る結果であった。3学期に生徒を対象に実施したICT活用能力調査では、基本的な操作技能については、概ね習得できている結果となった。今後、プログラミング教育など、問題解決・探求における情報活用能力を育てるとともに情報モラル教育も進めていく。

【学識経験者の意見】

- ・ICT教育は今後重要になってくると思う。支援員は必要であり、教員の負担とならないようにしてもらいたい。
- ・児童・生徒一人一台タブレット端末の整備を始めとしたICT学習環境が整っていることが分かった。ICT機器を活用した授業では児童・生徒がより関心をもって取り組めており社会に出ていく上で必要となる情報活用能力を育むことができると思う。
- ・利活用が進むにつれてトラブル等の増大も予想されることから、情報モラル教育についても充実させてもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	運動能力向上事業	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	こども教育課	重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
		取 組	(1)～⑤動能力向上の取組

事業の目的	
《概要》 幼・保、小、中、高の一貫とした運動能力向上ができるよう異校種間の連携を図り、発達段階に応じた指導の充実に努めることができるよう支援する。講師を幼・保、小、中の体育の授業等に派遣して幼児・児童生徒の運動能力向上及び指導者の指導力向上を図る。	
対 象	幼稚園、保育所、小学校、中学校、教職員
手 段	体育の授業等への講師派遣や共通した運動プログラムの導入
目 標	年間を通して計画的に講師を派遣することで、運動に親しむ幼児・児童生徒の増加及び幼児・児童生徒の運動能力の向上を図るとともに、指導者の指導力向上を図る。

【これまでの実績】

平成 25 年度からの新規事業として、幼・保、小、中学校の体育の授業や放課後水泳練習等に講師を派遣し、幼児、児童生徒の体力向上に働きかけるとともに、教員を対象とした研修会等を実施し、指導力向上に努めてきた。

【令和4年度実績】

○体力・競技力向上プログラム実施事業

- ・指導者 : 和泉 貴史氏、坂本 真一氏
- ・実施回数: 各校 2 回程度 9/5～9/9、11/14～11/18 (和泉氏)
各小学校 12H まで (星城小 6H) (坂本氏)

○幼保運動能力向上講習 (お兄さんの体操教室)

- ・指導者 : 健康運動指導士 坂本 真一氏
- ・対象者 : 幼稚園・保育所の 2・3・4・5 歳児
- ・実施回数: 全 69 回 (こどもセンター 19 回、星城 9 回、安田 10 回、苗羽 10 回、
内海保育所・橘・福田 21 回)

○放課後児童クラブスポーツ教室 (子ども教室活動)

- ・指導者 : スポーツラボかがわ 松浦 弘氏
- ・対象者 : 放課後児童クラブ利用者
- ・実施回数: 30 回 (池田 7 回、内海 23 回) R4. 4～R5. 3

○部活動指導員補助事業

- ・指導者 : 田中 優介氏
- ・対象者 : 小豆島中学校柔道部

○競技力向上事業補助金事業

- ・陸上部 14 回〔主な成績〕令和 4 年度香川県中学校四種競技兼中長距離記録会
1 位 共通男子 3000m、1 年男子 800m
2 位 共通男子 3000m
- ・野球部 9 回、バスケットボール 1 回

○大会出場補助金事業

- ・香川県小学生選抜陸上競技大会: 45 名 (池田 9 名、星城 17 名、安田 15 名、苗羽 4 名)
- ・第 73 回香川県中学校駅伝大会: 13 名 (男子 8 名、女子 5 名)
- ・第 59 回香川県中学校新人体育大会 (バドミントン): 14 名 (男子 7 名、女子 7 名)
- ・第 59 回香川県中学校新人体育大会 (剣道): 6 名 (女子 6 名)
- ・第 62 回香川県中学校総合体育大会 (相撲): 1 名 (男子 1 名)

【事務局の評価】 B

幼稚園・保育所、小学校で外部指導者による指導が定着し、それぞれの発達段階で運動能力の向上につながった。

【学識経験者の意見】

- ・外部講師の指導が定着し、幼保で行ったことが運動能力向上という成果となっている。今後も継続してもらいたい。
- ・中学校の部活動指導員を増員してもらいたい
- ・新聞等の記事でも子どもの体力低下という言葉を目にする。昨年度は町内の子どもたちも同様の傾向がみられると聞いた。事業を継続することも大事だと思うが、日ごろの学校生活の中で運動の機会を作ってもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	ふるさとを愛する事業	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	こども教育課	重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
		取組	(1)-④学校教育の取組

事業の目的	
《概要》 ふるさとを愛する子どもを育てるためには、地域の「人」「もの」「自然」等の教育資源を積極的に活用することが重要であり、小・中学校の教育活動や授業に組み込む。	
対 象	小学生、中学生
手 段	町内に存在する地域の「人」「もの」「自然」等の教育資源を小・中学校の教育活動(授業)に組み込み、積極的に活用する。
目 標	各校の生活科や総合的な学習の時間等において、地域の教育資源を学期に一度は活用した授業を実施し、ふるさとを愛する子どもを育てる。

【これまでの実績】

各校の生活科や総合的な学習の時間等に、地域の教育資源を活用した授業を実施した。

【令和4年度実績】

- **生活科(小1・2)や総合的な学習の時間(小3～中1)等で地域の教育資源を活用した授業を年間計画に位置付け、実施した。**(年間50時間～70時間程度)

※以下は学習内容例

- ・小学校1・2年「季節見つけ」「町探検」
- ・池田小学校「いくた学習」
3年：障がい者理解、4年：いろいろな職業、5年：高齢者理解、6年：人権
- ・星城小学校「星っ子タイム」
3年：醤油、4年：オリーブ、5年：高齢者理解、6年：ふるさとの未来
- ・安田小学校「安小わくわくワークス」
3年：オリーブ、4年：地域の産業や仕事、5年：海洋体験、6年：小豆島のよさ
- ・苗羽小学校「ひしおの里学習」
3年：醤油、4年：オリーブ、5年：壺井 栄、6年：ふるさとのよさ
- ・小豆島中学校「うしお学習」
1年：オリーブ、農村歌舞伎、醤油、寒霞溪、二十四の瞳、ふるさと村

- **校外学習(遠足)で小豆島の自然を体験**

- ・オリーブ公園、田ノ浦、寒霞溪、岩ヶ谷、ふるさと村 等

【事務局の評価】B

教育資源である醤油やオリーブのことを子どもたちが地域の方々に聞くなど協力いただき、人のかかわりについても学習している。また、専門家と石の歴史探索や漁協による出前授業等、地域人材を有効に活用して、地域資源の再発見につながるようにしている。

次年度以降も各学校や各学年の実態に合わせた積極的な取組を継続していき、よりふるさとを愛する心を育てていくよう工夫して実施していきたい。

【学識経験者の意見】

- ・収穫体験など小豆島には教育資源がたくさんあるが、小豆島の文献、歴史などを学ぶ機会を増やしてもらいたい。
- ・学校の事業として実施するには時間的に限界があると思う。学校と町内各地域との関わり、イベント等に参加するなど考えてもらいたい。
- ・教育目標にあり特に大事にしたい事業のように思う。幼保においても保育・教育の中に取り入れているはずだが実績に反映されていない。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	人間尊重(心)の教育推進	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	こども教育課	重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
		取組	(1)-④学校教育の取組

事業の目的	
<p>《概要》</p> <p>「差別の現実に学ぶ」を基本に、幼・保、小、中、高の一貫した人権・同和教育ができるように、校種間の連携に配慮し、適時性、系統性を踏まえて指導の充実に努めることができるように支援する。小、中学校においては同和問題を柱として人権・同和教育を進める。</p> <p>また、小、中学校では、道徳の時間が全教育活動で要となるように、指導の充実を図る。</p>	
対象	幼稚園、保育所、小学校、中学校
手段	学校主体の人権学習を支援するとともに、地域や幼・保、小、中、高の連携を強化し、人権・同和教育及び道徳教育の推進を図る。
目標	日々の行動に生かされる人権・同和教育及び道徳教育を推進し、人権意識の高まりや道徳性の涵養を図る。

【これまでの実績】

人権・同和教育については、それぞれの発達段階において、共通実践課題に沿った活動を積み重ね、着実に子どもたちの人権感覚は高まってきている。また、道徳教育についても「道徳の日」の設定など、各学校が創意工夫し、地域ぐるみで子どもを育てる取り組みに努めてきた。

【令和4年度実績】

○ 人権・同和教育に関する共通実践課題の共通理解と実践

- ・幼・保 自分・友だち ・中学校 1年 「けがれと差別」
 - ・小学校 1年 自分・友だち 2年 「身分制社会」「さまざまな差別」
 - 2年 家族・友だち 3年 「身近な差別（部落差別）」
 - 3年 障がい者 小豆島中学校人権集会
 - 4年 仕事・LGBT ・高 校 1年 「さまざまな人権課題」等
 - 5年 高齢者 2年 「同和問題について」等
 - 6年 部落差別に関する学習 3年 「差別解消をめざす取組」等
- 各小学校人権発表会

○ 保護者との連携を図るための授業公開や「道徳の日」の充実

【事務局の評価】 B

幼保、小、中学校では共通実践課題の共通理解と実践に努めた。特に、小中学校では社会科、生活科、総合的な学習の時間、道徳の時間を中心に学習を充実させることで、児童生徒の人権意識を高め、実践行動に繋げるようにした。校内研修や現地研修、新任・転入教職員研修会の開催などにより、教職員の人権意識の向上を図ることができた。

【学識経験者の意見】

- ・継続してもらいたい。
- ・教育大綱の項目に掲げており家庭、地域との信頼関係を築くとある。特に保護者との関わり、理解が得られることが大変だと思う。保護者との連携を図るための事業も更に充実させ啓発を行ってほしい。
- ・人権教育は熱心に行えていると思う。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	食育の推進事業
担当課	こども教育課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
取組	(1)-⑤ 運動能力向上の取組

事業の目的	
<p>《概要》</p> <p>学校給食を提供することにより、食生活の正しい理解と習慣を養うこと、明るい社交性を養うこと、食生活の合理化・栄養改善・健康増進を図ること、食料の生産・配分・消費について正しい理解に導くことを目的とする。</p> <p>また、食の安全性を重視した地場産品である食材の利用と、季節に応じた旬の献立作成にも注力する。</p>	
対象	保育所児、幼稚園児・小学生・中学生ならびに保護者
手段	栄養教諭が中核となって、教職員研修・子どもの指導・家庭への啓発等を行う。
目標	食育の重要性に対する認識をさらに深め、実践することで、子どもの健康増進を図る。

【これまでの実績】

平成24・25年度の2年間、国の補助事業「栄養教諭を中核とした食育の推進事業」を受け、取り組んだ。以降、取組を継続して子どもへの指導や家庭への啓発等を図っている。

【令和4年度実績】

○学校給食実施状況 ※3年度は小中学校の中に教員が含まれる。4年度は有償のため検食等を含む

年度 実施区分	令和3年度		令和4年度	
	回数	延べ給食数	回数	延べ給食数
幼・保	199	17,633	198	15,619
小学校	198	116,732	198	94,472
中学校	188	55,704	198	48,770
検食等(有償)	200	3,490	199	26,967
合計	785	193,559	793	185,828

○地場産品の活用【金額ベース】

年度	令和3年度	令和4年度
小豆島産	8.1%	8.0%
香川県産	41.1%	41.0%
その他国内	42.2%	43.7%
輸入	8.6%	7.3%

【事務局の評価】 A

令和4年度においても幼稚園、小学校、中学校で「朝食の大切さ」や「野菜を中心に」食に関する指導を行った。1日当たり約1,040人分の給食をコロナ禍でも安全安心な学校給食の提供に努め、食材には香川県産など地産地消を優先的に使用することに努めた。

また、今年度から保護者の子育て支援と負担軽減のため、小中学校の給食費を無償とした。

【学識経験者の意見】

- ・地場産品を活用したメニューの開発も子どもたちが食や自分の住んでいる地域に対して愛着を持つことができる良い取り組みだと思う。給食無償化の取り組みも大きな変革だと思う。
- ・食育の推進事業については、栄養教諭が中心となって給食提供においても様々な工夫がされているようだが、実績で示されているのは給食関係のみで他の事業の状況がわからない。給食は大切だが食育をもっと広い視点でとらえ、栄養教諭以外の関係者の協力を得ながら実施するなど考えてもらいたい。一週間に5回給食を食べるので、その機会を利用してのワンポイント食育アドバイス等が実施できればと思う。食育は日々の積み重ねが大事であると思う。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	コミュニティ・スクール 地域学校協働活動	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	こども教育課 生涯学習課	重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
		取 組	(1)-⑥ 家庭・地域の教育力向上の取組

事業の目的	
<p>《概要》</p> <p>学校は地域住民や保護者と力を合わせて学校運営に取り組み、「地域とともにある学校づくり」を目指す。また、地域は幅広い住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、「学校を核とした地域づくり」を目指す。</p>	
対 象	小学校・中学校、地域住民
手 段	学校と地域学校協働本部を中心とした地域住民等が教育目標を共有し、組織的・継続的な連携を図る。
目 標	学校運営協議会や学校支援ボランティアの効果的な活用など、学校と地域の連携・協働を積極的に推進する。

【これまでの実績】

令和3年4月小豆島中学校に、町内すべての小学校に令和4年4月学校運営協議会を設置。協議会を設置した学校をコミュニティ・スクールと呼ぶ。

【令和4年度実績】

○コミュニティ・スクール

- ・開催回数 年2回/各校
- ・構成員 教育懇談会、町議会議員、PTA役員など 62名

○学校支援ボランティア (各小・中学校、保育所、幼稚園への支援)

地域学校協働本部を教育委員会内に設置。

- ・登録者数 183人
- ・活動日数 授業補助：222日、部活動指導：284日、環境整備：68日
その他（登下校の見守りや読み聞かせ）：1,084日
- ・家庭科ミシンボランティア

池田小3日延べ11人、星城小4日延べ26人、安田小3日延べ22人、苗羽小3日延べ7人

【事務局の評価】 A

学校運営や教育方針について理解してもらい、学校側の要望について話し合い協力して学校を支えていくことが確認できた。また、学校支援ボランティアの方々もコロナ禍で登録者数が減少していたが、行動制限が解除されてきたことから若干増加した。授業補助や環境整備に支援をいただき、子どもの学びや成長を支える活動をしていただいた。

学校の課題である環境整備についてボランティアを募っていく。また、令和5年4月から中学校での休日の部活動を地域に移行するためスポーツ協会と協議を重ね準備を行った。

【学識経験者の意見】

- ・学校の環境整備にボランティアの方が参加してくれており良い関係が築けていると思う。
- ・ミシンボランティアの参加者からは子どもたちから元気をもらえていると聞いている。ボランティアの導入を積極的に進めていくことは良いことだと思う。一方で地域とともにある学校づくりを目指すとして掲げているが、地域での子どもの数は激減し、学校での状況がわからなくなっているように感じる。学校だよりやPTA新聞もなくなり、地域と学校のつながりが薄れているように感じる。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	子育て応援事業
担当課	こども教育課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	子育て応援の充実
取組	(2)-②子育て応援の島づくりへの取組

事業の目的	
《概要》 特定不妊治療費助成事業から一時預かり事業の実施等による子育て世帯の負担軽減、5歳児健診事業を実施することにより子どもたちの健やかな育ちのサポートや保護者の育児不安の解消を図るなど、下記事業を行うことで未来を担う子どもたちが健やかに育つ環境を支援する。	
対象	町内の児童、保護者、住民、企業、島外に住む出身者及び移住者
手段	5歳児健診は小児科医、臨床心理士、言語聴覚士、保健師の協力のもと、集団観察、カンファレンスを行い、保護者と協議する。 一時預かりは、住民や企業の子育て参加を促す。子育てがしたくなる町づくりを実施する。多様な働き方を応援する。
目標	5歳児健診では、小学校就学に向けた適切な支援を受けられるよう関係機関と連携し、医療機関へ繋ぐ。また、子育て相談会を実施することで保護者の育児不安を解消する。 一時預かりでは、保護者の子育てに関する不安を軽減するとともに子どもたちの健やかな育ちを応援する。子育てを応援することによりみんなで元気になる。

【これまでの実績】

5歳児健診については、平成25年度から継続してすべての児童を対象（希望者）に行っている。保護者の就労、傷病、入院、冠婚葬祭や育児疲れ等の理由により、一時的に保育困難となった子どもをNPO法人リトル・ビーンズに委託し『一時預かり事業』を実施している。核家族化、共働き家庭やひとり親家庭など、多様化する子育て環境にきめ細かく応え、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいる。また、平成26年度から19時以降の夜間の一時預かりや、平成27年度から仕事を休めないなどの理由により、子どもを小豆島中央病院病児病後児保育室に連れて行けない保護者に代わり、子どもを病院まで送迎する『病児通院サービス（有料）』を始めた。

【令和4年度実績】

○家庭保育サポート事業

リトル・ビーンズでの一時預かり事業利用児数の推移

	[令和2年度]	[令和3年度]	[令和4年度]
乳幼児一時預かり	488人(月平均40人)	741人(月平均62人)	662人(月平均55人)
学童	260人(月平均21人)	279人(月平均23人)	227人(月平均19人)
夜間一時預かり・病児通院サービス	0人・0人	0人・0人	0人・0人

○5歳児健診事業

対象児童80名のうち76名（95%）が受診した。

〔判定結果〕

良好60名、経過観察16名、既医療5名（経過観察と重複あり）

○特定不妊治療費助成事業

R4	10	851,260円	新規治療4、継続治療6
----	----	----------	-------------

○子育て応援モデル事業

R4	4	1,839,293円	新規2（うち自治会2）、継続2
----	---	------------	-----------------

- ・田浦オリーブプロジェクト
- ・苗羽自治会
- ・小豆島アートプロジェクト
- ・北条自治会

【事務局の評価】 A

休日や22時までの夜間一時預かりや保護者に代わって病児を小児科・病児保育室まで送る通院サービスなど他の施設では行っていないきめ細かいサービスを行う。夜間一時預かりや通院サービスの利用実績はないが、保護者が安心して子育てできる体制を整備している。

また、5歳児健診では、小児科医や臨床心理士などの協力を得て実施している。集団観察、カンファレンス、保護者面談など事業開始から10年経過し体制が定着した。今後は、小児科医等による報告や助言に理解を示さない保護者に対し継続的に働きかける体制づくりと、個別に行う療育支援体制の充実に取り組むとともに、健診後に保護者面談や子育て相談会等の充実を図る。

【学識経験者の意見】

- ・仕事と子育て環境の実態の把握ができていないのか、夜間の一時預かりや病児通院サービスの利用が3年間で1件もないのは、サービスがある事への安心感として理解するだけでよいのか疑問である。
- ・5歳児健診は良い取り組みであるので継続してもらいたい。5歳児健診に対して理解を示さない保護者や対応については、個別に寄り添いながら、全員が受診してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	子育て支援拠点事業 放課後児童クラブ事業	小豆島町の教育における位置付け			
担 当 課	こども教育課	重点課題	子育て応援の充実		
		取 組	(2)-④働きやすい環境の促進		

事業の目的	
<p>《概要》</p> <p>子育て支援拠点事業を実施するこどもセンターをはじめ、各園・所で相談窓口を設け、保護者の子育ち不安の解消に努める。</p> <p>地域の実態や保護者の要望に応じて、幼稚園で「預かり保育」、保育所で「一時保育」、小学生の児童を預かる「放課後児童クラブ」などを実施する。</p>	
対 象	島内在住の生後4か月から以上小学生まで
手 段	子育て支援拠点を設置し、親子の交流・子育て相談ができる場を提供する。 放課後児童クラブ事業では、共働き家庭など昼間留守家庭の児童に対し、放課後に適切な遊びや生活の場を提供する。
目 標	子育て支援拠点事業では、地域の身近なところで、気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場所を提供することにより家庭保育の孤立感や孤独感の解消を図る。放課後児童クラブ事業を実施することにより、多様な保護者のニーズに応え、児童の健全な育成を図る。

【これまでの実績】

子育て支援拠点として、せいけんじこども園にて「わくわくランド」、小豆島こどもセンターにて「すくすくひろば」を提供している。

池田地区においては、池田放課後児童クラブ、内海地区においては、社会福祉法人清見福祉協会に委託し、内海放課後児童クラブ（第1・第2）を実施している。

【令和4年度実績】

○子育て支援拠点事業

小豆島こどもセンター（すくすくひろば）

年度	開設日数 (週当たり)	年間開設日数	大人	子ども	平均利用親子組数(1日あたり)
令和3年度	週5日	120	414	457	3組
令和4年度	週5日	209	472	639	3組

せいけんじこども園（わくわくランド）

年度	開設日数 (週当たり)	年間開設日数	大人	子ども	平均利用親子組数(1日あたり)
令和3年度	週6日	288	1,932	3,424	7組
令和4年度	週6日	281	1,993	2,184	7組

○放課後児童クラブの充実

池田放課後児童クラブ登録児童数								(単位：人)							
学年	R3年度							R4年度							
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計	
児童数	13	12	3	9	2	4	43	18	11	9	1	6	0	45	
うち年間登録	9	6	1	5	0	1	22	13	7	5	0	3	0	28	
うち長期休業登録	4	6	2	4	2	3	21	5	4	4	1	3	0	17	

内海放課後児童クラブ（第1・第2）登録児童数（単位：人）

学年	R3年度							R4年度						
	1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	4	5	6	計
児童数	25	27	12	9	2	0	75	17	24	20	7	8	2	78
うち年間登録	23	22	12	7	1	0	65	12	22	16	5	6	1	62
うち長期休業登録	2	5	0	2	1	0	10	5	2	4	2	2	1	16

【事務局の評価】 A

すくすくひろばは、感染症拡大防止のため、前年度まで利用の自粛や一定期間休止するなど、一部規模を縮小したため、利用者・利用児童が減少していたが、令和4年度は開所日数も増え、利用者も増加した。放課後児童クラブの利用者は、例年通り受入れしている。

【学識経験者の意見】

- ・意見なし

事務事業の点検・評価表

事務事業名	生涯学習の推進
担当課	生涯学習課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
取組	(3)-① 生涯学習の推進

事業の目的	
《概要》 地域の生涯学習活動を推進し、地域の特色を生かした社会教育施設活動を行い、すべての住民の生きがいをづくりや社会参加を支援する。	
対象	住民
手段	講座の実施、自主活動団体の支援、施設の管理運営
目標	地域活動の活性化

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【令和4年度実績】

① 地域コミュニティの核としての公民館の充実 (11 公民館)

講座数・参加者数 141 件・1,517 人 (文化講座等)
 団体利用件数・人数 367 件・56,457 人
 活動集会件数 47 件 (文化関係: 32 件、体育関係: 15 件)
 施設予約システムの導入

デジタル社会が進行する中、公共施設予約をネットでできるようハード整備を行った。

② 学習機会の提供と自主活動グループの支援・各施設の利用拡大と活用

(勤労青少年ホーム) …… 勤労青少年の生涯学習活動支援

施設利用人数 1,435 人
 登録サークル・クラブ数 8 団体・113 人 (小豆島町青年団、小豆島竹細工同好会ほか)
 教養講座教室 ギター教室・英会話教室・卓球教室等 (卓球教室はコロナ中止)

(働く婦人の家) …… 婦人教育の充実と活動の活性化

施設利用数・人数 20 団体・6,386 人
 講習回数・人数 18 件・316 人 (出張講座、生活講座、栄養講座ほか)
 講演会人数 30 人 (防災講演会)
 定期講座 (自主活動) 220 回 (ヨガ、パッチワーク、お花 club、amiami クラブほか)

【事務局の評価】 B

コロナウイルス感染症の影響により希薄になりがちであった、人と人の交流が戻りつつある中、各種講座や行事を再開しており、次第にコロナ前の状況に戻りつつある。

施設予約については、これまでの紙ベースからネットでもできるようになり、施設利用に対する利便性は向上したものと思っている。今後も新型コロナウイルス感染症対策に留意しながらの開催になるが、魅力ある活動を計画し、さらに人づくり・地域づくりを推進したい。

【学識経験者の意見】

- ・コロナ禍から戻ってきており良いと思う。
- ・人口減少が著しい町で、特に意識したいのが世代間交流である。高齢者にとっても子どもにとっても、そのような機会や場において得るものはたくさんあると思う。生涯学習の推進として実施する公民館活動では、その点を考慮した事業等を企画してもらいたい。
- ・利用者が固定化しているのが問題であると思う。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	文化芸術の推進
担当課	生涯学習課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
取組	(3)-② 文化・芸術活動の推進

事業の目的	
《概要》 町内の歴史や文化、自然、文化財、景観等のさまざまな魅力について、適切に保存活用・普及啓発するとともに、現代アート等の手法で島内外に発信する。	
対象	地域住民、観光客 等
手段	現代アートによる地域・文化芸術振興、文化財や「地域の宝物」の保存・活用、先人の顕彰活動など
目標	地域活動や文化の活性化及び町内の「地域の宝物」の保存・活用

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【令和4年度実績】

① 文化芸術の推進（壺井栄顕彰事業）

概要：郷土の児童・生徒の文芸資質の向上と発展を図るため、文芸作品を募集し、最優秀作品に「壺井栄賞」を贈呈。応募数の減少が課題。

応募状況：19校122編（小学12校112編、中学6校9編、高校1校1編）

② 文化財の保護と活用（文化財保護事業）

補助事業：指定文化財の保存活用・後継者育成のため、所有者・保持団体の活動補助。（中山の舞台大規模改修事業、無形民俗文化財後継者育成事業 ほか）

普及啓発：住民、見学者へ文化財や地域の魅力を伝えるための活動を継続して実施。（広報文化財連載、図書館・ふるさと村等を活用したミニ企画展 ほか）

計画策定：「地域の宝物」の保存・活用の促進のための文化財保存活用地域計画策定が完了。（作成期間：令和2年度～4年度 計画期間：令和5年度～14年度）

令和4年12月文化庁認定（県内初認定、四国でも2例目）。

地域の歴史文化や魅力をわかりやすくまとめた点、地域にあるさまざまな「地域の宝物」を保存・活用するため、教育、商工、観光、産業、景観、コミュニティ等のさまざまな分野と連携している点が、文化庁より大きく評価された。

③ 芸術活動の推進

瀬戸芸 2022 アート作品の推進（瀬戸内国際芸術祭推進事業／三都半島）

神浦地区を中心に、アート作品の設置と展示会を開催。

作品数：新規作品4点、既存作品5点 期間：春夏秋の計105日間

【事務局の評価】 A

文化財の保存整備・継続的な普及啓発の推進により、地域の魅力の発信を行うことができたほか、文化庁の認定を受けた文化財保存活用地域計画は、文化庁から高い評価を得ることができた。今後はこの計画に基づき、戦略的な「地域の宝物」の保存・活用を行いたい。

芸術活動の推進では、瀬戸芸 2022 において神浦地区の魅力を活用した作品展開をすることができた。今後も三都アートプロジェクト等の機会を活用し、幅広く効果的な地域・文化芸術の振興を展開していきたい。

また、今後とも根本的な目標である「地域の活動・文化の活性化」のため、引き続き地域を交えて検討していきたい。

【学識経験者の意見】

- ・文化財保存活用地域計画を職員が作成したことはすごく良いと思う。
- ・地域行事は継続することが難しくなっているが、文化は地域にとって大事であると思う。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	青少年の健全育成の推進	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	生涯学習課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取 組	(3)-③ 青少年の健全育成の推進

事業の目的	
《概要》 家庭・学校・地域が連携し、地域全体で青少年の健全育成を推進する。	
対 象	町内の青少年
手 段	街頭補導活動、環境浄化活動、情報交換会、子ども会活動、ジュニアリーダー活動、学校支援ボランティア活動等
目 標	町内青少年の健全育成を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【令和4年度実績】

① 青少年の健全育成の推進（少年育成一般事業）

街頭補導実施回数：39回 補導：14名 有害図書等回収数：99点
 常駐育成委員会及び生徒指導連絡会：11回開催（夏休み期間の8月を除き各月）
 夏休み中夜間パトロール：2地区、延べ33人参加

② 子ども会活動の振興と充実

単位子ども会
 団体数：34団体 登録人数：818人（うち育成者295名）
 ジュニアリーダー 町内の中高生で構成。子ども会の活動を支援。
 人数：13人（高校生9名、中学生4人）
 参加：各種行事コロナにより中止

③ 学校支援ボランティアの推進

学校支援ボランティア登録者数 183人
 学校支援活動延べ日数 1,658日（登下校安全指導、部活動指導ほか）

【事務局の評価】 B

新型コロナウイルス感染症の不安と高齢化を理由にボランティア登録者数は減少したが、活動延べ日数は増加している。地域の方々の協力により、学習支援、部活動支援、読み聞かせ、環境整備、登下校の見守り隊等、学校を支援することによる地域教育力の向上のほか、地域や行政、警察、学校が連携した少年育成事業により、地域を上げての子どもたちの健全育成の推進ができた。

子ども会では、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、感染対策を徹底したうえで、コロナ禍で中止や延期していた群子ども会レクリエーション大会やクリスマス会等を開催することができた。また、ジュニアリーダーの研修活動や、初級認定会等は継続して行った。今後もジュニアリーダーを活用し、子どもたちの思いやりの心や行動力・表現力を育成するよう努めていきたい。

【学識経験者の意見】

- ・実績は良いと思う。
- ・地域コミュニティは子ども会が中心であると思うので核になる人を育成してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	図書館活動の充実
担当課	生涯学習課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
取組	(3)-④ 図書館活動の充実

事業の目的	
<p>《概要》</p> <p>身近な図書館として地域の人々に読書をはじめとする情報サービスを提供する。 「図書館だより」の刊行、町ホームページへの掲載などによる情報発信を行う。また、各公民館への配本を行い、遠隔地へのサービス充実を図る。さらに、ロビー展の増設をはじめ読書週間行事や各種事業を実施し、図書館の啓発と利用促進に努める。</p>	
対象	町内住民
手段	情報発信、図書の貸し出し、配本、各種事業の展開
目標	本に親しみ、安定的に利用されることで、住民の教養の向上を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【令和4年度実績】

① 図書資料の充実と利用状況

年度	図書資料		入館者数	貸出冊数			視聴覚コーナー利用者
	蔵書	A V		一般図書	児童図書	A V	
4	84,840	1,688	18,143	24,724	22,840	806	0

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、視聴覚コーナーはR2.2.29より利用停止

② 池田子ども文庫の充実と利用状況

年度	図書資料		入館者数	貸出冊数	
	蔵書			一般図書	児童図書
4	7,525		508	198	603

【事務局の評価】 B

新型コロナウイルス感染症の流行が収まらない中ではあったが、令和4年度は図書館サービスの制限をせずに開館できた。主催行事は規模を縮小しながらではあるが、ほとんどのイベントが開催できた。コロナにより減少した入館者数も徐々に増加している。

池田子ども文庫の入館者数は前年に比べて減少した。池田小学校及び池田学童保育センターに池田子ども文庫を紹介するポスター掲出を依頼し、子どもの利用促進に努めている。ブックスタートにおいても池田地区在住の方に池田子ども文庫の案内を行っており、人気のあるタイトルや最新の赤ちゃん絵本を揃えた。

町内全域での利用促進のため、遠隔地の公民館や幼稚園・保育所等への配本を行っており、概ね安定した利用状況にある。リクエスト資料はその都度、池田子ども文庫や公民館へ届けている。

【学識経験者の意見】

- ・図書館の利用者が少ないが職員は丁寧に対応できていると思う。
- ・身近なところで利用できるのは良いと思う。
- ・大人の読書習慣が子どもの読書に繋がると思う。大人に対する読書の推進を考えてもらいたい。
- ・読み聞かせを含めた読書活動の大切さを周知してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	社会体育の充実
担当課	生涯学習課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
取組	(3)-⑤ 社会体育活動の推進

事業の目的	
《概要》 スポーツのできる環境を整え、町民の誰もがそれぞれの体力や年齢に合わせてスポーツやレクリエーションに親しむ機会を提供する。	
対象	町民一般
手段	大会や教室の開催、スポーツ関係団体の育成、体育施設の整備
目標	スポーツやレクリエーションに親しむ機会を提供する。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【令和4年度実績】

①誰でも参加できる多様なスポーツ活動・体育行事の推進【大会・教室の開催状況】

小豆島駅伝競走大会	19 チーム参加	貯筋運動教室	13 人参加
バドミントン教室	18 人参加	中学生テニス教室	35 人参加
初心者水泳教室	238 人参加	レディース水泳教室	60 人参加
親子ふれあい海洋教室	179 人参加	ソフトボール大会	9 チーム参加
ふるさと発見！ウォーク	79 人参加	体力運動能力テスト	23 人参加

②スポーツ活動を支える仕組みづくりの推進【スポーツ関係団体の状況】

スポーツ推進委員	18 人	委嘱
スポーツ協会	15 団体	873 人 加入
スポーツ少年団	9 団体	134 人 加入

③スポーツ活動がしやすい環境づくりの推進【体育施設の利用状況】

〈体育館〉

内海	池田	B&G	中山	福田
736 件	496 件	586 件	4 件	37 件
中学校	池田小	星城小	安田小	苗羽小
377 件	436 件	138 件	29 件	27 件

〈その他施設〉

内海 武道場	運動公園 野球場	運動公園 多目的グラウンド	運動公園 テニスコート	B&G プール	B&G 艇庫
44 件	324 件	355 件	441 件	3,738 人	0 人

【事務局の評価】 B

コロナウイルス感染症の影響はあったものの、感染対策を徹底したうえで、コロナ禍で中止や延期していた大会や教室を開催することができた。施設の利用件数についても中学校の各部活動やスポーツ少年団また一般利用者もの定期的な活動を再開したため、コロナ前の活動状況に戻ってはいないが、大幅に利用件数が増加した。但し、コロナ禍の影響により活動を休止した団体も見受けられた。

【学識経験者の意見】

- ・新たなスポーツ人口増を図るため、ニュースポーツの紹介や参加できる機会、大会等の企画をしてもらいたい。いろいろな団体の協力を得ながら実施するのもよいと思う。
- ・高齢者が利用できる施設はたくさんある。地域おこしの活動は良いと聞いている。新しいスポーツを振興してもらいたい。
- ・体を動かすことは大事であると思う。手軽にできる運動が良いと思う。
- ・スポーツを楽しむことが減っていると思う。